

生活困難者支援委員会通信 vol.8 2021

発行日：2021年6月25日 発行者：北海道社会福祉士会生活困難者支援委員会

2019年度、2020年度の生活困難者支援委員会では、「ハンセン病問題」、「コロナ禍における人権問題」、「自殺対策問題」をテーマとして、会員・非会員を問わず、広く理解と学びを深める目的でセミナーを開催しました。新型コロナウイルスの影響が長期化する中、あらゆる差別や偏見を解消し、「すべての人間を」、「かけがえない存在として尊重する」という、ソーシャルワーク実践の拠り所となる価値についてあらためて考えることが今後ますます重要になると考えます。当委員会では、コロナ禍により社会が大きく変わり、福祉的課題も重層化する中で、引き続きアンテナを高くしながら、さまざまな取組みをしていきたいと考えています。

ハンセン病セミナー

2019年12月8日
かほろ2・7

一昨年度の報告となりますが、「ハンセン病問題から考える」を開催しました。

この研修会は北海道のほか、札幌弁護士会、ハンセン病回復者と北海道をむすぶ会、ハンセン病問題と教育を考える市民の会コンパスといった、北海道ハンセン病問題協議会を構成する諸団体の後援を受け、当会会員16名、非会員4名、計20名の参加がありました。

セミナーは4部構成で行われ、はじめに、国立ハンセン病資料館事業部社会啓発課課長の太高俊一郎学芸員から「ハンセン病問題から学ぶこと」と題してご講演いただきました。日本のハンセン病の歴史と療養所内での生活の説明を通じて、ハンセン病差別と強制隔離の残酷さ、またそのような状況の中でも生きる意味を自ら作り出す回復者の方々の様子をうかがうことができました。

次に、「北海道ハンセン病問題検証会議とその後」と題して、札幌弁護士会所属原総合法律事務所の前琢磨弁護士にご講演いただきました。「北海道ハンセン病問題を検証する会議」の設立経緯とその後の活動、家族国賠訴訟判決と補償法についてご説明いただいた上で、人権の大切さ、「知った者の責任」、そして「土」業としての責任について、熱のこもったご講演をいただきました。続いて当会の清野光彦相談役から「北海道社会福祉士会としてのハンセン病問題への取り組み」と題して、日本ソーシャルワーク連盟が開設・運営しているハート相談センター、及び当会としてこれまで継続してきた取組についてご報告をいただきました。

最後に「社会福祉士として何ができるか／何をすべきか」をテーマに、参加者3～4名1組でグループワークを行い、検討・発表をしました。ハンセン病のことは報道等で知っていたつもりでいたが、実際にはよくわかっていなかったことが多く勉強になった、といった感想が聞かれました。



2001年にハンセン病回復者に対する強制隔離政策について違憲判決が下され、今年は20年の節目となる年です。2019年6月にハンセン病家族国家賠償請求訴訟で、家族への深刻な差別についても熊本地裁は国の責任を認めました。ようやく家族被害への補償と、差別・偏見の解消に向けた社会教育の取組が進むと期待された折、この年の末に発生したCOVID-19の感染が翌年世界的に広がり、自粛要請、隔離対応、緊急事態宣言とその延長が続くことになりました。感染症への無理解が差別・偏見を助長する事態は今回のコロナ禍でも見られ、ハンセン病政策の負の歴史を改めて想起させることになりました。

あらゆる差別・偏見の解消のために、ハンセン病問題から得られる教訓を学び、語り継いでいく当委員会の活動に対し、引き続きご理解とご協力をよろしくお願いいたします。(道北地区支部：平田)

【NEWS】

当会生活困難者支援委員会では、相談専用のメールアドレスを開設しています。

seikatsu-soudan@hokkaido-csw.or.jp

COVID-19の発生による生活上の困りごと全般についてのご相談の他、どこに相談をしたら良いかわからない場合の最初の相談先としてもご活用ください。

人権啓発セミナー

2020年12月6日
オンライン開催

人権啓発セミナー（キャリアパス事業）をオンラインにて開催しました。

「不寛容社会、それでいいの？～差別、バッシング、自粛警察等のない社会づくりのために専門職ができること～」をテーマに、豊中市社会福祉協議会福祉推進室長・勝部麗子氏を講師に迎え、コロナ禍における豊中市の実践についてご講演戴きました。

活動が制限される生活が長期にわたる中で、「離れていてもつながろう」を合言葉に、CSWとしてできることを次々に考案し実行されています。そこには民生委員や地域住民の協力があり、地域全体が差別や偏見を持たず、全ての人に居場所や役割を持つて頂く意識の高さを痛感しました。



休憩を挟んでワールドカフェでは、ご講演の感想を語り合い、参加者同士が各地域の状況や実践などを情報共有し、withコロナ・アフターコロナと社会づくりにおいてSW(支援者)ができることを2라운드의グループワークで考えました。

参加後のアンケート結果は、勝部氏のご講演に対する期待、共感、感動と大好評でした。ワールドカフェも好評で、今後もオンラインセミナーとグループワークの活用を希望するご意見を多数戴きました。(釧根地区支部：石川)

自殺対策セミナー

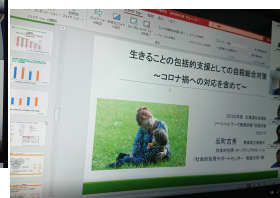
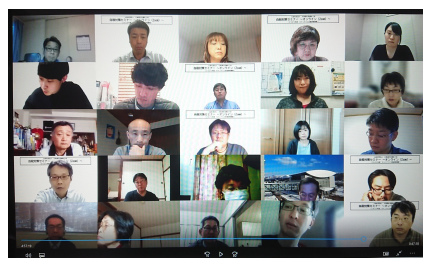
2021年3月14日
オンライン開催

ソーシャルワーク実践研修「自殺対策セミナー」を開催しました。新型コロナウイルス感染拡大防止の観点より、オンラインでの開催となりました。

講師として、青森県立保健大学大学院健康科学研究科教授・反町吉秀先生と日本医療大学保健医療学部看護学科教授・吉野淳一先生をお招きし、講演して頂きました。

反町先生からは、「生きることの包括的支援としての自殺総合対策～コロナ禍への対応を含めて～」と題してご講演頂きました。昨今の自殺予防に関する施策や各自治体での取り組みについて、分かりやすくお話を頂きました。自殺を「個人」の現象と捉える事ではなく、「社会」全体の問題として捉える事が重要である、と話されており、ソーシャルワークの考え方と通じるものであると感じました。

吉野先生からは、「自死遺族の支援に必要なこと」と題してご講演頂き、自死遺族に対する「支援者と



しての在り方」についてお話を頂きました。体系的な知識や技術を用いて支援を行なう以前に、「対象者の前に立つ私（支援者）は、どのような存在であるのか？」ということ深く考えさせられました。吉野先生からは、ナラティブ・アプローチや悲嘆理論の変遷を交えながら、先の問いのヒントを頂いたような気がします。

グループワークでは、様々な意見が出されました。

例えば、「自分の住む自治体の自殺対策について調べたい」とか、「実際に『死にたい』という相談が来たら、どの機関と連携するのか？」などです。

4時間という時間が、あっという間に過ぎた、大変有意義な研修会でした。(道央地区支部：吉村)

セミナーアンケートより

<今後の委員会活動に期待すること>

- ・ 活動内容をもっと知りたい。
- ・ 具体的なケース対応などの情報提供が欲しい。
- ・ 現場の支援者も相談窓口にとどりつく事の難しさを感じているので、臨時的窓口（Zoomや地域での開催）を設置するなどの活動。



<今後受けたい研修の内容>

重層的支援体制について／各種実践報告／CSWの実践
差別や偏見をなくすための取り組みの具体例・取り組み
困窮者自立支援について／ハンセン病について
自殺対策／ひきこもり支援／差別や偏見の解消にむけた研修
「薬物依存症」違法ドラッグ／処方薬や市販の風邪薬での依存症
生活困窮者自立支援において先進的な取り組み事例や実践／
分野横断的に差別や偏見に立ち向かうための研修やセミナー
自殺対策やアフターコロナにおけるソーシャルワークについて
コロナに対する各地域の事業所の具体的な対応 e t c